



左から信太、高杉、西村、三浦

れた。能代へ向かう途中、三種町の妻の実家に立ち寄り亡き義父へ帰郷報告をし、その後母校で井上校長先生をピックアップして、予約を入れていた檜山の農家レストラン「星舞台」へと向かった。

レストランで再び西村君、加藤君と合流し、井上校長先生、野村君、私の 5 人で手打ちそばを味わっ

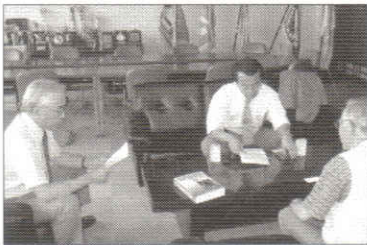


た。ここ檜山は「どぶろく特区」に指定されているとのことで“どぶろく”を正々堂々飲めるのだが、その場では諸事情により私だけが頂くことになった。

その後、ボランティアで地元の歴史ガイドも務めているという西村君の案内で檜山城址を散策した。地元の歴史をすらすらとそらんじる西村君に皆が大いに感心したのだが、学生時代にその能力を発揮していれば今の檜山納豆はなかったかも知れない…などと考えるのは余計なお世話というものか。

檜山を後にし、いよいよ母校訪問である。母校に到着すると既に職員室には現在同窓会 HP、BLOG の管理者である小林勝平先輩 (33 期) が我々の到着を待っていてくださった。

挨拶も早々に小林先輩には HP 作成にまつわる歴史的なお話を伺った。現在の同窓会 HP の内容の充実していることもさることながら、かつて赴任された各高校をご自身の



HP 内で継続的に紹介されておられた。これには大変な労力が必要だったと想像するが、今は更に「風の松原案内」の作成に力を入れておられるとのことであり、いただいた手作りのパンフレットの出来栄もまた見事なものである。是非、地元の同窓生の皆さんにも小林先輩の同窓会 HP、BLOG の維持管理のお手伝いをお願いする次第である。

(<http://www.shirakami.or.jp/pinewood/>)

その後、校長先生に校舎を案内していただいた。武道館では壁に掲げられた柔道部の名札の中に野村君や私の同期の名前を確認して大いに懐かしんだが、一方体育館でスパイクの練習をしていた女子バレーボール部の姿を見るに至っては 32 年という月日を実感した。我々の時代では考えられなかったことだが、今では女子生徒のスポーツも盛んであり、活躍が期待されているとのことである。

更に帰りの時間を気にしながらも樽子山へと足を伸ばした。中和通りから見上げる正面玄関への上り坂があんなに短く、緩やかだったのだろうか。プラタナス並木の向こうに構えるかつての木造校舎を思い出す。我々の思い出をここに留めている「青春の碑」にも初めてお目にかかった。

いよいよ樽子山を去ろうとした時、ふと、裏門からすぐの所にあったタバコ屋はどうなったか気になったので覗いてみることにした。偶然にも店の前には、32 年前に能代高校が移転すると寂しくなると言ってくれた“タバコ屋のおばさん”、鈴木恭子さんの姿があった。結婚してから一度お会いしているが、それでも 20 年振りである。私が名乗って挨拶をすると最初は「(果てどなたでしょう?)」との表情で戸惑いの様子だったが、数秒間の沈黙の後「森岳の三浦さん？」と突然の訪問にもかかわらず私を思い出してくださり、その直後、頬には涙が。「樽子山の裏門に来たら鈴木さんに…」と私も続けたのだが感極まって最後は声にならなかった。鈴木さんは数年前に事故で左目を負傷し治療を続けているとのことだったが、今年 78 歳になるという“樽子山の母”と思われぬ再会が出来ただけでも、樽子山を訪れて本当に良かった。

今回の秋田での数々の再会は私にとっては一生忘れられないものになるであろう。



樽子山の母、鈴木さんと

平成 18 年度 総会、懇親会の様子

平成 18 年度東京同窓会総会並びに懇親会は、平成 18 年 10 月 7 日、アルカディア市ヶ谷において行われました。総会後の懇親会では、日本テレビ「笑点」でおなじみの林家たい平師匠をお招きしてのライブショーがあり、会場は笑いの渦に包まれ、和やかな時間を過ごしました。

